

# 協

四年  
 筆順 一十カ 協  
 オン キヨウ  
 画数 8

成り立ち



四方から来た道が、「一つにまとまった」形を表した「十」と、「たくさんの人々の力」という意味の「協」とを組み合わせて作った字です。

「たくさんの人々の力を一つにまとめる」こと、「力を合わせる」ことを表した字です。「協力」ということばがありますが、それが「協」という字の意味です。【例】協同、協賛、協会、協議、協定。

使い方

▽ぼくのクラスでは、うさぎを飼うことになりました。みんなが協力して、世話をする事に決めました。かわいいうさぎなので、これから楽しみにです。

▽集団で行動する時は、お互いが協調することが大切です。自分勝手な行動を取る人がいると、みんなが迷惑します。

熟語例

▽協力（力をあわせて、一つの目的に向かって努力すること。「一致協力して、困難にあたる」などというふうに、つかいます。）

▽協同（力をあわせて、助けあって仕事すること。）

▽協賛（ある計画に対して賛成し、協力すること。「ベルギー大使館が協賛している展覧会に出かけた」などというふうに、つかいます。）

▽協議（意見を一つにまとめるための会議）

▽協定（協議して定めること。相談して決めること。「世界各国の間で、漁業に関する協定が結ばれた」などというふうに、つかいます。）

使い方

▽鏡にうつして自画像を書きました。できあがったところで何だかおかしいと思ったら、筆を持っている手が左右で逆なのです。鏡は、反対にうつすということを忘れていました。

▽おかあさんの鏡台の上には、クリームや、くしゃ、口紅など、いろいろなものがのっています。大人の女人は、いろいろな化粧道具をつかいます。わたしは、あんなことは面倒だと思えます。

熟語例

▽鏡台（鏡をたてる台）

▽三面鏡（鏡が三つある鏡台。あわせ鏡）

▽明鏡（曇りのない鏡。ふつう「明鏡止水」というふうにつかわれます。「曇りのない鏡と静かに澄んだ水」という意味から、「澄み切って静かな心境」の意味）

▽眼鏡（レンズを利用して、視力を補う器具）

▽望遠鏡（レンズや反射鏡を利用して、遠くのものをはつきり見る器具）

▽顕微鏡（非常に小さいものを、レンズを利用して、拡大して見る器具）

# 鏡

四年  
 筆順 一十カ 鏡  
 オン キヨウ  
 画数 19  
 かがみ

成り立ち



「境（年589）」の意味を表した「竟」と、「かがみ（むかしは金でくで作られました）」のざいりょうを表した「金」とを組み合わせて作った字です。

鏡にうつったものは、実さいの物のすがたをそのままそっくりうつして、実さいの物と同じように見えますが、それはそう見えるだけで、鏡が境になっていて、それから先には入れないし、うつっている物は実さいにはありません。それで、境になっている「かがみ」とを「境」という字を使って「鏡」と言ったものです。「鏡」は「境の金でく」ということです。

今は、「レンズ」の意味にも使われます。【例】眼鏡、望遠鏡、顕微鏡。